



能村研三推薦・今月の30句

いつの間に子ら遠くなる潮干狩	栗原 公子
人流とふ賢し言葉卯波立つ	埴 誠一郎
滝壺の石のまばゆき群青忌	千田 百里
涼しけれ王子を乗せぬ白馬こそ	辻 美奈子
切株に残る温もり花疲れ	能美昌二郎
誘はれず誘はず夢に蕨山	大畑 善昭
目借時話は逸れてまた逸れて	町山 公孝
無心こそ原点なるや若葉風	望月 晴美
たつぷりと雨吸ひし木々抱卵期	宮内とし子
粽結ふ舟出のやうに笹並べ	甲州 千草
浮き腰にやうやく日暮れ梨花授粉	大沢美智子
牡丹散る風に重さの見えにけり	吉田 政江
簾上ぐ五島列島見ゆるまで	荒井千佐代
咲き継げぬ水中花さきつづける	富川 明子
追憶のやうに黄沙の降りしきる	栗坪 和子
声あらばバリトン泰山木の花	井原 美鳥
捨てきしこと忘れきしこと春深む	中村 重幸
五月来る何をするにも腕捲り	川高郷之助
村いくつ市の名に吞まれ麦の秋	森村 江風
平らかな水を切り分け田水張る	道端 齊
継橋の人つぎ世継ぎ花は葉に	七田 文子
子つばめの口は黄の花菓にひらく	小林 陽子
火をくぐりきし白磁壺涼しかり	平松うさぎ
落款は鳥の足跡畦を塗る	鈴木 和江
一月をかけて組む山車解く一日	坂下 成紘
十戒の海の壁立つ大千渴	河寄 祐二
夕立雲出すを躊躇ふ手紙あり	浜崎喜美子
緑蔭を駆くる風あり車夫のあり	澤田 英紀
天に香を捧げゐるかな朴の花	牛島 晃江
涅槃像真似して眠る万愚節	水谷 昭代

沖 の 水 脈

